

# 中小企業動向 トピックス

## 中小自動車部品製造業に求められる革新への取り組み ～「全国中小企業動向調査（中小企業編）」にみる 現状と今後の見通し～

本稿では、日本政策金融公庫が2010年6月に実施しました「全国中小企業動向調査（中小企業編）」をもとに、中小自動車部品製造業の現状と今後の見通しについて、ご紹介させていただきます。

中小自動車部品製造業の業況をみますと、足元堅調ではありますが、今後は受注数量の減少や交易条件の悪化などによって、伸び悩むことが予想されます。

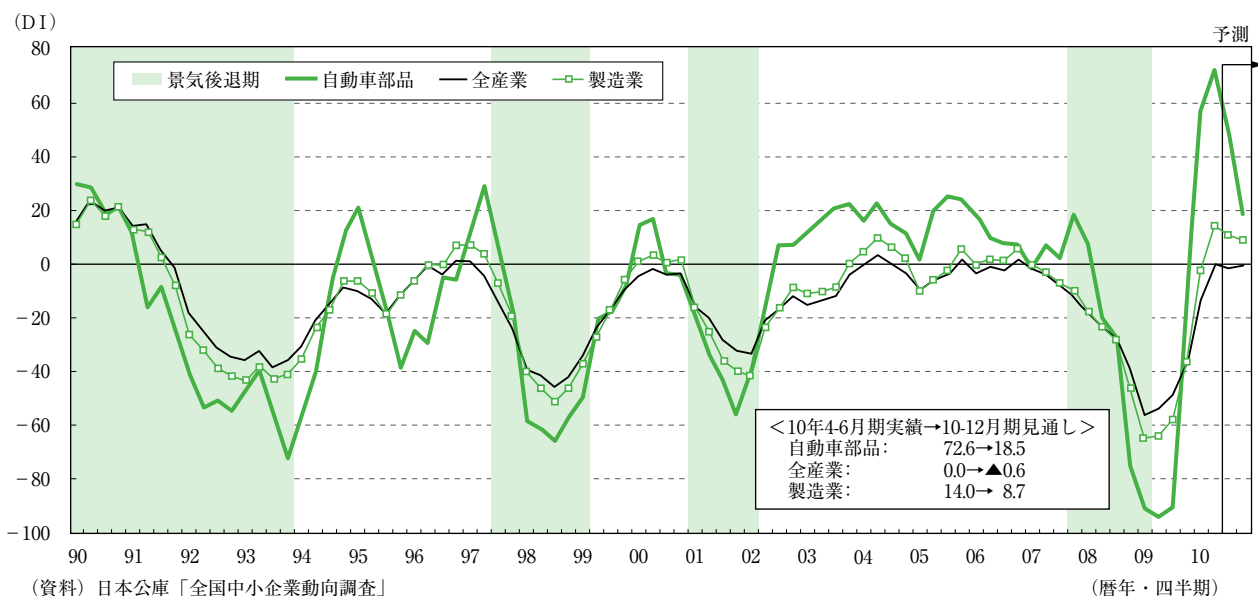
そうした中、中小自動車部品製造業では、新製品の生産や新規事業への進出に積極的に取り組むことで革新を図り、自動車産業を取り巻く環境変化に対応しようとする様子が見えられます。

### 業況は足元堅調ながらも、先行き慎重な見通し

中小自動車部品製造業の業況は、足元堅調です。2010年4-6月期実績の業況判断DI(原数値)は、72.6と大幅なプラスとなっており、全産業(0.0)、製造業(14.0)と比較しても高い水準にあります。

ただし、先行きについては、慎重な様子が見えられます。2010年10-12月期の予測DIは18.5とプラス幅は大きく縮小する見通しとなっています。これは主に、前年同期に比べて業況が「好転する」とみる企業の割合が減少する一方、「横ばい」とみる企業の割合が増加することによるものです(図表1)。

(図表1) 業況判断DIの推移 (「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、原数値)

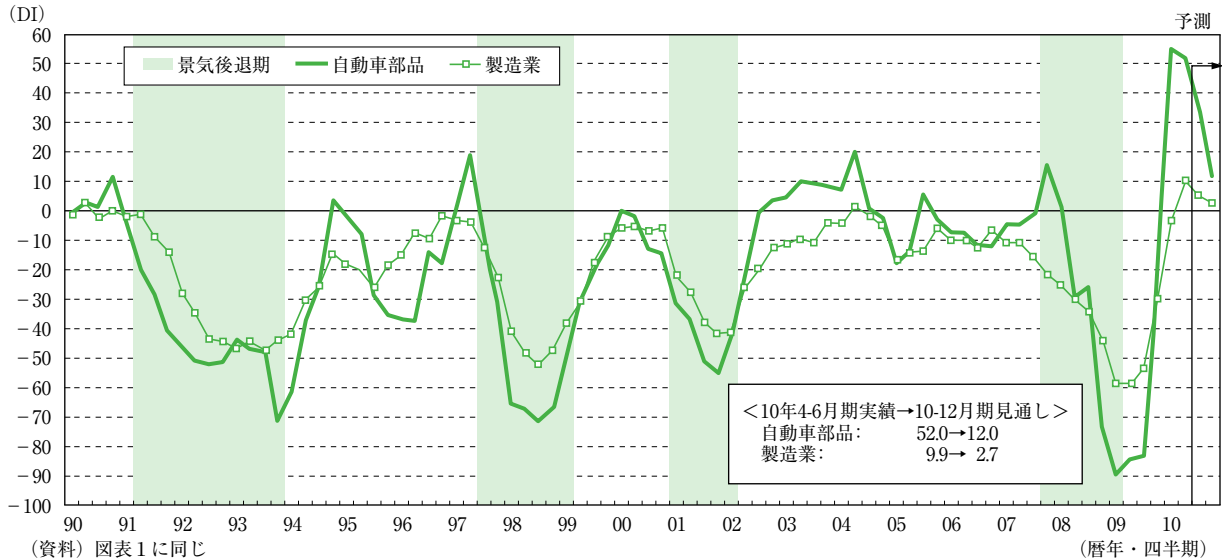


## 利益率の改善は鈍化へ

また、利益面についても同様の傾向がみられます。純益率DIをみると、2010年4-6月期実績は52.0と足元では高い水準にあります。

先行きについては、2010年10-12月期の予測DIが12.0とプラスを維持するものの、その幅は大きく縮小する見通しにあるなど、利益率の改善は鈍化する見通しにあります（図表2）。

（図表2） 純益率DIの推移（「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、原数値）

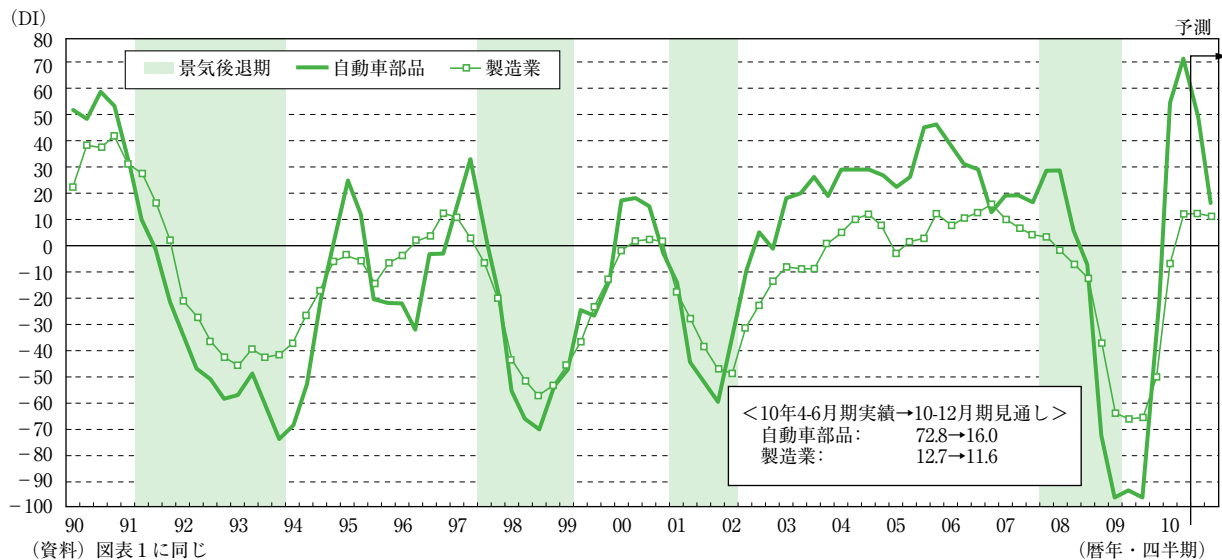


## 要因①：受注数量減による売上げの減少見通し

このように、中小自動車部品製造業の業況見通しが慎重な要因として、次の3つが挙げられます。

第一に、受注数量の減少による売上げの減少が見込まれることです。2010年4-6月期実績の売上げDIは、72.8と、製造業（12.7）と比較して高い水準にあるものの、先行きについては、プラス幅が大きく減少する見込みです（図表3）。エコカーに対する買い替え補助金が9月で打ち切られることによる受注減への不安などがこうした背景にあるものと考えられます。

（図表3） 売上げDIの推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、原数値）

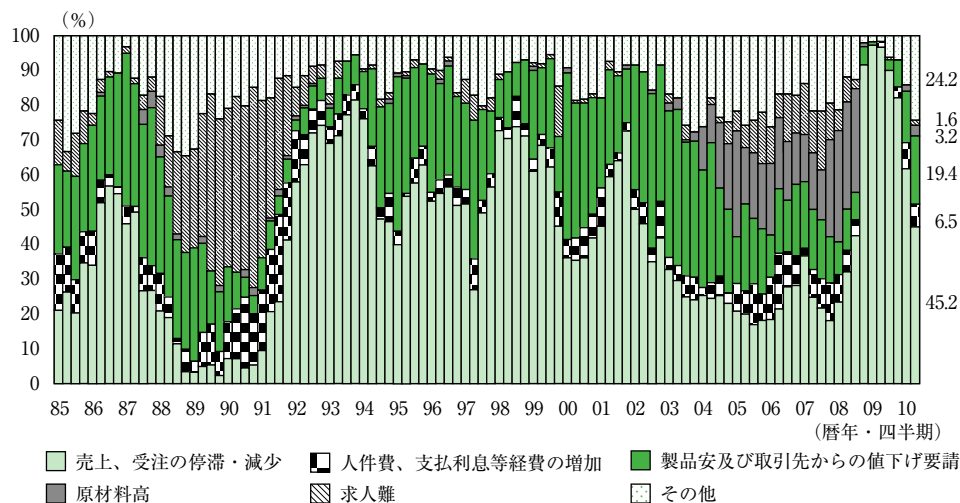


## 要因②：取引先からの値下げ要請に対する懸念

第二に、製品安及び取引先からの値下げ要請への懸念です。

中小自動車部品製造業の経営上の問題点をみると、「売上、受注の停滞・減少」の割合が減少する一方、「製品安及び取引先からの値下げ要請」の割合が増加しています（図表4）。

（図表4） 中小自動車部品製造業における経営上の問題点



（資料）図表1に同じ

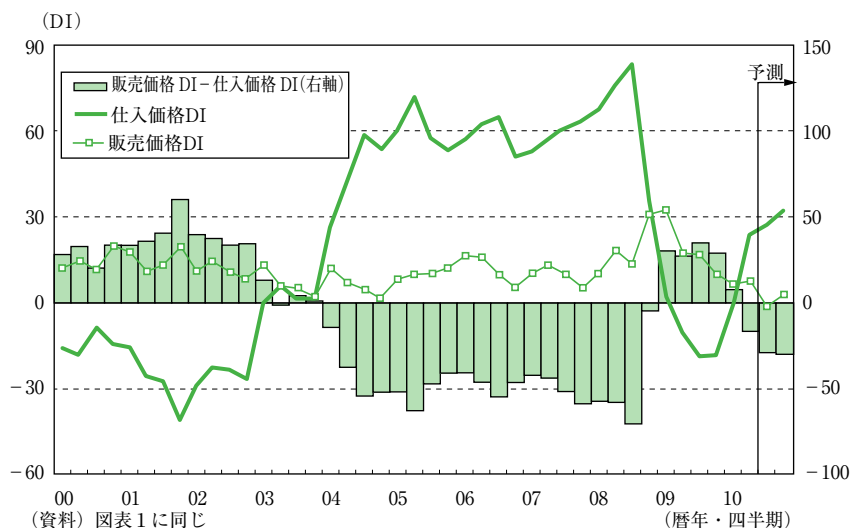
## 要因③：交易条件の悪化

第三に、仕入価格の上昇を主因とする交易条件の悪化です。

仕入価格 DI は、前期（2010年1 - 3月期）の▲0.9から23.8へと急激にプラスに転じています。販売価格 DI も7.6と2009年1 - 3月期をピークにプラス幅の縮小傾向が続いています。そのため、販売価格と仕入価格の差である交易条件（販売価格 DI - 仕入価格 DI）をみると、悪化基調にあります。

先行きについても、販売価格 DI は2期先にかけてプラス幅が縮小する一方、仕入価格 DI はプラス幅が拡大する見通しとなっており、交易条件悪化による中小自動車部品製造業の採算悪化が懸念されます（図表5）。

（図表5） 中小自動車部品製造業における価格DIの推移（「上昇」 - 「低下」企業割合、前年同期比、原数値）



（資料）図表1に同じ

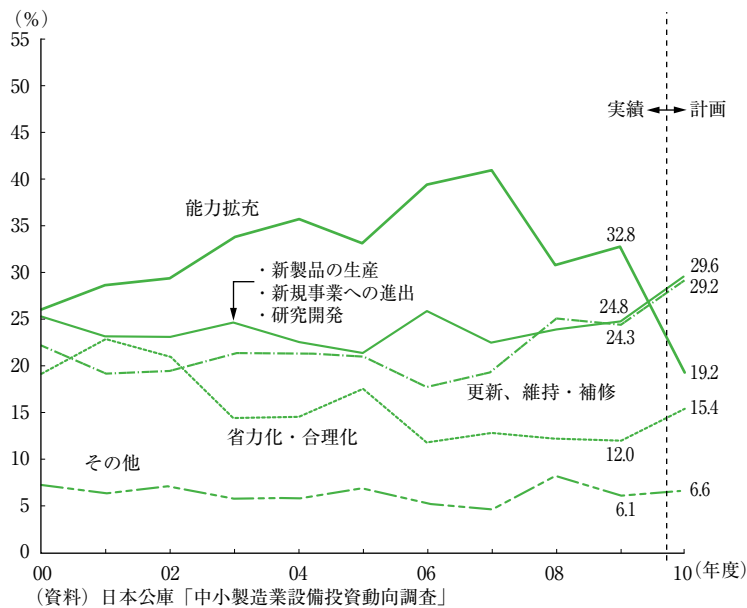
## 新製品・新規事業開発に積極的に取り組む中小自動車部品製造業

こうした中、中小自動車部品製造業は、新製品の生産や新規事業への進出に積極的に取り組んでいます。

2010年4月に実施した「中小製造業設備投資動向調査」で設備投資状況を目的別にみると、2010年度当初計画では「能力拡充」投資の割合が減少する一方、「新製品の生産、新規事業への進出、研究開発」投資の割合が29.6%と、2009年度実績(24.8%)から上昇していることがわかります(図表6)。

中小自動車部品製造業は、業況の伸び悩みが見込まれる中、生産能力拡充への投資を大幅に絞る一方で、新製品・新規事業開発にかかる投資に対しては、積極的に取り組もうとする様子が見られます。

(図表6) 設備投資の目的別構成比の推移(輸送用機械、取得ベース)



## 求められる革新への取り組み

電気自動車をはじめとする次世代自動車への対応や新興国向け低価格車への対応など、自動車産業を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。しかしながら、そうした課題に対する完成車メーカーや大手部品メーカーの対応は各社様々であり、方向性は必ずしも定まっていなのが現状です。

そのため、中小自動車部品製造業は、まずは販売先などから最新の動向や技術に関する情報を積極的に収集する必要があります。そうした情報をもとに、自社の技術が販売先のニーズにどのように貢献できるかを具体的に提案していくことが必要です。

また、自動車産業がどのような方向に進んでも必要とされるような技術の開発に取り組むことも重要です。例えば、部品の軽量化と高強度化の実現を可能とするような新たなダイカストによる成形法を開発した事例や、これまでは溶接や切削によって製造していた部品をプレスで製造することで大幅なコスト削減に成功した事例などがみられます。

自動車産業の方向性が定まらない中、中小自動車部品製造業は、こうした「部品の軽量化」や「コスト削減」に資するような技術開発に積極的に取り組むことが求められるでしょう。

(丹下 英明)

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jfc.go.jp/>